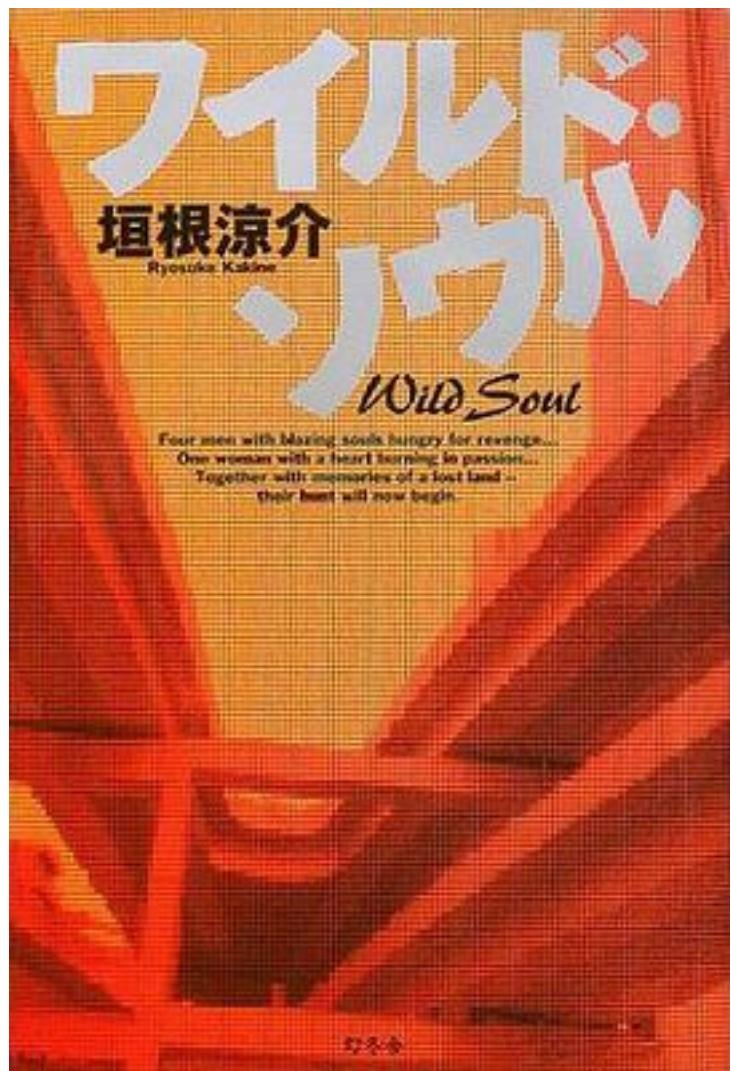


ワイルド・ソウル



[ワイルド・ソウル 下载链接1](#)

著者:垣根涼介

出版者:幻冬舎

出版时间:2003/08

装帧:单行本

isbn:9784344003736

【日本推理作家協会賞（第57回）】 【大藪春彦賞（第6回）】 【吉川英治文学新人賞（第25回）】 忌まわしい過去を振り切ろうと、男達はそれぞれの別天地（ワイルド・ソウル）を目指す。東京を縦断しながら、フルスロットルで加速する史上最強のクライム・エンターテインメント。幻冬舎創立9周年記念特別作品。

『午前三時のルースター』で2000年のサントリーミステリー大賞・読者賞をダブル受賞してデビューを飾った垣根涼介は、旅行会社の添乗員だった経験を生かしたリアルな舞台設定と、纖細な人物描写を得意とする新しい才能である。そんなクライム・エンターテイメント小説の気鋭が、事実を基に練り上げ1年をかけて書き下ろした意欲作が本書である。国の無責任な移民政策による被害者たちの怨恨という難しいテーマを、きめ細かく鮮やかに料理し、読者を突き抜ける爽快感へと導く。

外務省、ひいては日本国にだまされた形で南米へ移住し、辛酸をなめた人間たちの復讐譚（たん）が、骨太につづられる。爽快なリベンジというのは妙な話だし、書名と装丁からも、盛大に人が死んだり大量な血が流れるステレオタイプなクライム・ノベルを想像しがちだが、それはまったくの間違いだ。垣根の作品に共通する要素は、「美意識を共有する者同士は、初対面から信頼しあい決して裏切らない」というテーマと、自動車マニアやメカ好きなクールガイが多く登場する、という2点。また、ある種の性善説にもとづく博愛的世界観および諦念、それから底辺に生きる人間への優しさ、いまなざしも随所に感じさせる。本作では、それらの「垣根要素」がうまくミックスし、更に2か月にわたる南米取材を糧に、存在感のある登場人物が大活躍する理想のリベンジ譚となつた。

主要な登場人物ではないが、外務省襲撃の目撃者で夜ごと首都高をとばすルーレット族の男性が、「機関銃がバンバン撃たれているところを見たかった」「外務省が嫌いだから…ザマアミ口って思っていた」と証言する場面がある。読者の気分を代弁すると共に、ヒッチコックのように、一瞬作者が姿を現したようで面白い。今後も目の離せない書き手のひとりだ。（坂本成子）

作者紹介:

〈垣根涼介〉 1966年長崎県生まれ。筑波大学卒。2000年「午前三時のルースター」で第17回サントリーミステリー大賞・読者賞をダブル受賞してデビュー。著書に「ヒートアイランド」がある。

目录:

[ワイルド・ソウル 下載链接1](#)

标签

日本推理

推理

评论

[ワイルド・ソウル_下载链接1](#)

书评

[ワイルド・ソウル_下载链接1](#)